

## 安全データシート

### 1 化学物質等及び会社情報

製品識別：AT 除菌 75%アルコール

会社名：株式会社アーテック

住 所：大阪府八尾市北亀井町 3-2-21

電話番号：072-990-5505

FAX 番号：072-990-5525

商標：Artec

サイズ：5LX4 本/箱、 500ml x 28 本/箱

### 2 危険有害性の要約

物理化学的危険性：引火性液体 区分 2

健康に対する有害性：

目に対する重篤な損傷、眼の刺激 区分 2

生殖細胞変異原性 区分 1

生殖毒性 区分 1

特定標的臓器毒性・全身毒性（単回ばく露） 区分 3

特定標的臓器毒性・全身毒性（反復ばく露） 区分 1（肝臓）区分 2（神経）

上記で記載のない危険有害性は分類対象外、分類できない、または区分外

GHS ラベル要素：



注意喚起語：危険

危険有害性情報：

引火性の高い液体及び蒸気

強い眼刺激

遺伝性疾患のおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

眠気またはめまいのおそれ

長期または反復暴露による肝臓の障害

長期または反復暴露による神経の障害のおそれ

注意書き 安全対策：

取り扱い後はよく手を洗う事

適切な保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

防爆型の電気機器、換気装置、照明、機器等を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

注意書き 救急措置：眼に入った場合や飲み込んだ場合には医師の診断をうけること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性：

引火しやすい液体

蒸気は空気と一定量混合すると爆発性ガスとなる

工業的には比較的無害の溶剤とみなされるが、蒸気を吸入すると麻酔薬 として働き、繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、感覚鈍磨、頭痛などを起こす。

### 3 組成及び成分情報

化学物質

単一物質もしくは混合物の区分： 混合物

CAS NO.	成分	濃度
64-17-5	エタノール	75%
56-81-5	グリセリン	1%
/	香料	1%
7732-18-5	水	23%

主成分 エタノールについて

化学式または構造式 C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>OH

国連分類 クラス 3 (引火性液体類)

国連番号 1170

製造者情報 品名： AT 除菌 75%アルコール

### 4 応急措置

応急措置：

吸入した場合：患者を直ちに現場から空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸困難な場合は、酸素を投与する。必要に応じて医師の手当てを受ける

こと。

皮膚に付着した場合： 刺激を感じた場合は水で洗いながす。

眼に入った場合： 直ちに瞼を開けた状態で眼を流水もしくは生理食塩水で徹底的に15分以上洗浄すること。必要に応じて医師の手当を受けること。

飲み込んだ場合： エタノールを大量に飲み込んだ場合、30分以内であれば（アポモルヒネを使用すべきでない）催吐措置は可能である。または1%炭酸水素ナトリウム液で胃洗浄を行うこと。または水、牛乳を大量にのませて、医師の手当を受ける。

応急措置を行う者への注意事項： 患者を安全な場所に移し、医師に相談する。本安全データシートを臨場した医師に見せること。適切な保護具を着用する。

医師への特記事項： データなし

## 5 火災時の措置

消火剤：

水、粉末消火剤、炭酸ガス、泡（耐アルコール泡）  
棒状注水を避けるべきである。引火性液体を飛び散らせ、火災を強める恐れがあるため。

特有の危険有害性：

少量の水での消化は、火災を拡大させる恐れがある  
引火性。蒸気は空気と爆発性混合物を生成し、裸火、高温により爆発することがある。蒸気は空気より重いため、低部に滞留し、遠くへ拡散しやすい。発火源に接触するとバックドラフトやフラッシュオーバーが発生する。火災区域では高温になった容器や貯蔵タンクが爆発する危険性がある。

消化方法：

初期火災には大量の水を噴霧、又は上記の消火剤等による消火を行う。大規模火災発生時は大量の水を分負、又は泡消火剤等による空気遮断にて消化を行う。

消火時の注意事項及び安全対策：

消火作業にあたる者は、化学用保護衣、空気呼吸器を着用し、風上側から消火を行うこと。できるだけ容器を火災区域から広い場所へ移動する。消火作業終了まで散水して火災区域にある容器を冷却する。火災区域にある容器に異変や異音がした場合、直ちに消火剤（水、

非水溶性泡、粉末、二酸化炭素、砂) を撤去する。

## 6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

すべての発火源を除去すること。液体の流れと蒸気拡散の影響区域によって警戒区域を設定し、関係者以外は側面、上風側から安全な場所に撤退し、立ち入りを禁止する。応急措置を行う者は自給式呼吸器、帯電防止作業服を着用する。取扱う時用いる全ての設備は接地すること。できるだけ漏出源を遮断する。漏出物を自然水系、下水溝、地下室或いは閉鎖場所に流入するのを防ぐこと。少量漏洩の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収する。吸収したものを集める時、清潔な帯電防止工具を用いる。大量漏洩の場合、盛土で囲って流出を止めた後、液面を非水溶性泡で覆い、蒸気発生を抑制する。

環境に対する注意事項：

少量の場合は、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。大量の場合は漏出液を密閉式の空容器にできるだけ回収し、回収できなかった場所は大量の水で洗い流す。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

少量漏洩の場合：できるだけ漏洩した液体を密閉できる空容器に回収する。乾燥土、活性炭や他の不活性材料で吸収し、安全な場所に移す。下水溝に流してはいけない。  
大量漏洩の場合：大量漏洩の場合、盛土で囲って収容する。排水路を閉鎖する。泡で覆い、蒸気発生を抑制する。

二次災害の防止策：

浸透性および揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

## 7 取扱い及び保管上の注意

安全取扱注意事項：

火気厳禁。禁煙。強酸化剤との接触禁止。

保護具を着用する

眼との接触を避ける。蒸気の吸入を避ける。

密閉システム、換気、防爆型電気機器及び照明器具を使用する。

充填、取り出し、移送時に圧縮空気を使用してはならない。

取扱者は専門的なトレーニングを受け、取扱いマニュアルを厳守すべきである。

取扱いは局所換気もしくは全体換気設備のある場所で行う。

火気、熱源から遠ざける。

防爆型の換気システム及び設備を使用する。

酸化剤など混触危険物質との接触を避ける

運搬時は、容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの粗暴な取扱いをしてはならない。包装及び容器の破損を防ぐ。

取り扱い後はよく手を洗うこと。作業場は飲食禁止。

適切な種類と数量の消防設備及び漏出措置用設備を設置すること。

直射日光の当たらない温度の低いところに、密栓して保管する。

子供の手の届くところに置かない。

貯蔵注意事項：

耐火設備（構造）。強酸化剤と離して保管すること。

倒れたり、こぼれたりすることのないような場所に施錠して保管する。

## 8 曝露防止及び保護措置

許容濃度： 設定されていない

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）： 設定されていない

日本産衛学会（2005年版）： 設定されていない

アメリカ（ACGIH）： TLV-TWA： 1000ppm

生物学的許容値：データなし

モニタリング手段：

GBZ/T160.1～160.81-2004 作業場の気中有害物質測定（関係基準）、EN 14042 作業空間の大気化学物質および生物剤への曝露評価のための適用および使用手順ガイド。

設備対策：作業場は他の作業場と分けたほうがいい。

密閉空間での作業。漏洩防止。

換気をよく行う。

自動警報装置及び非常用換気設備を設置する。

非常用の避難通路及び必要なウオームゾーンを設置する。

レッドゾーンの警告ライン、警告標識及び中国語注意書きを設置する。検知通報システムも設置する。

安全シャワー及び洗眼設備を設ける。

個人用保護具：

呼吸器の保護具：換気。局所排気又は呼吸器保護具。

手の保護具：保護手袋。

眼の保護具：安全ゴーグル。

皮膚及び身体の保護具：不浸透性化学防護服を着用すること。

## 9 物理的及び化学的性質

外観及び物理的状态：無色澄明液体。

臭い： 特有な香気を有す

pH： 6.0-8.0

融点・凝固点 (°C)： -114°C 気圧： 1 atm。

沸点、初留点及び沸騰範囲 (°C)： 78.29°C 気圧： 1 013.25 hPa。

引火点 (°C)： < エタノール 21°C (密閉)

自然発火温度 (°C)： 368.8°C 注： 368.8°C+/-7.4°C

燃焼性 (固体、ガス)： データなし

燃焼範囲： データなし

飽和蒸気圧 (kPa)： 57.26 hPa。温度： 19.6°C

蒸発速度 (酢酸ブチル= 1)： データなし

相対密度 (水= 1)： 786.4 kg/m<sup>3</sup> 温度： 25°C

n-オクタノール/水分分配係数 (lg P)： log Pow = -0.35。温度： 24°C。

分解温度 (°C)： データなし

動粘性率： データなし

爆発限界 [% (体積比)]： 空气中 3.3%~19% (体積)

最小発火エネルギー： データなし

体積抵抗率 (導電率)： データなし

相対ガス密度 (空気= 1)： 1.6

嗅覚閾値 (Mg/m<sup>3</sup>)： データなし

溶解度： 水、メタノール、エーテル、クロロホルムなどの溶剤と混合できる

主成分エタノール 100%としての参考値

融点 -114.5 度

沸点 78.32 度

引火点 13 度 (密閉)

発火点 439 度

## 10 安定性及び反応性

安定性： 通常的环境温度での貯蔵と取扱いは安定である。

危険有害性反応：

濃硫酸、過酸化水素等の強酸化剤と接触すると、着火や爆発の危険をもたらす。高濃度過酸化水素と激しく反応し、爆発する。液体塩素、次亜塩素酸と反応しやすく、生成した次

亜塩素酸エチルは低温で分解しやすく、加熱や直射日光で爆発する危険性がある。塩化アシル及びアシルブロマイドと激しく反応し、エステルを生成する。アルカリ触媒法では、イソシアネートとの反応は不活性溶剤で行うべきである。でないと爆発する危険がある。リチウム、ナトリウム、カリウム等のアルカリ金属と反応し、可燃性爆発性の高い水素ガスを発生する。

避けるべき条件： 静電気放電、高温、多湿、衝撃等。

混触危険物質： 強酸化剤、酸類、アルカリ金属、アミン類。

危険有害な分解生成物： データなし

## 11 有害性情報

急性毒性： データなし

経口： LD50-rat (female)-15 010mg/kg bw

吸入： LC50-mouse (male)->60 000 ppm

経皮： データなし

皮膚腐食性・刺激性： データなし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性： データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性： データなし

生殖細胞変異原性： データなし

発がん性： データなし

生殖毒性： データなし

特定標的臓器毒性（単回曝露）：

本物質は、眼を刺激する。高濃度の蒸気を吸入すると、眼及び気道を刺激する。中枢神経系に影響を与えることがある。

特定標的臓器毒性（反復曝露）：

液体は皮膚の脱脂を起こす。上気道及び中枢神経系に影響を与えることがある。刺激、頭痛、疲労および集中力欠如を生じることがある。「注」を参照。

吸引性呼吸器有害性：

20℃で気化すると、極遅く空気が汚染され、有害濃度に達する。

## 12 環境影響情報

生態毒性：

魚類急性毒性試験： LC50-Pimephales promelas-14.2 g/L-96 h

ミジンコ急性遊泳阻害試験： LC50-Ceriodaphnia dubia-5 012 mg/L-48 h

藻類生長阻害試験：EC10-Chlorella vulgaris-86 mg/L-4 d

微生物毒性試験：IC50-activated sludge from domestic and industrial sewage treatment plants->1 000 mg/L-3h

残留性・分解性：データなし

生態蓄積性：データなし

土壌中の移動性：データなし

オゾン層への有害性：データなし

### 13 廃棄上の注意

残余廃棄物：

排気においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと

都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

破棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

本製品を含む廃液及び洗浄廃水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

容器は関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

### 14 輸送上の注意

国連番号：該当なし

国内規則：消防法により第1類および第6類との混載禁止。

特別安全対策：

輸送に関しては、直射日光、雨、高温を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

本製品を輸送する車両のマフラーに火花防止装置を設けること。

火花の発生やすい機械設備及び工具で積み下ろしをしてはならない。

途中駐車時は、火気、熱源、高温の場所から遠ざける。

陸路輸送時は決められた車線を走行し、居住エリアや人口集中地区に停まらない。

### 15 適用法令

労働安全衛生法： 施行令 別表第9 名称等を通知すべき危険物及び有害物  
通知対象物資 (NO. 61) エタノール 65-75w/w%含有

化学物資管理促進法 (PRTR 法)：該当しない

航空法：施工規則第 194 条 3 引火性液体

毒物および劇物取締法：該当しない

消防法：危険物第 4 類アルコール類（エタノール） 水溶性・危険等級Ⅱ

薬事法：該当しない

食品衛生法：第 2 条 添加物

## 16 その他の情報

化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改定 3 版（国連出版物）他

この MSDS の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険、有害性などに関しては、いかなる保証をなすものではありません。

注意事項は通常取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。

本記載内容は法律、規則などの改正、新たな毒性試験結果の発表により改訂があり得ることをご承知おきください。

この MSDS は、本製造者提供の本製品の健康と安全面における注意喚起、並びに本製品の保管及び取扱い上の注意事項を提供するものです。製品の関連性質等に関しては、いかなる保証をするものではありません。契約書ではなく、法的効力は一切ありません。

\*\*\*以上\*\*\*